

平成 31 年（令和元年）5 月

魚津市定例記者会見



日時：平成 31 年 4 月 26 日（金） 午後 1 時 30 分～午後 2 時 15 分

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、読売新聞社、

NHK、KNB、チューリップテレビ、NICE TV、ラジオミュー

市当局出席者：市長、副市長、企画総務部長、民生部長、産業建設部長、

教育委員会事務局次長、企画政策課長

1. 市長からの発表事項

(1) 「天皇陛下御即位祝意記帳所」の設置について

- ・5月1日は閉庁日ではあるが、正面玄関は開放し、職員が在中し対応する。婚姻届時の記念撮影用パネルを作成。
(説明内容は別添プレスリリースのとおり)

(2) 魚津市ふるさと寄附 平成 30 年度の状況について

- ・平成 30 年度魚津市ふるさと寄附は、前年比で、申込件数は約 3 倍、金額は約 2.4 倍であった。(過去最多)
(説明内容は別添プレスリリースのとおり)

(3) 小中学校等の教育環境の整備状況について

- ・施設の耐震化率、普通教室の空調設備整備率については、4月現在で 100%となった。教育用 I C T 機器等整備については、平成 29 年度から導入が進められおり、今年度 8 月末までに全ての小中学校に整備される予定である。
(説明内容は別添プレスリリースのとおり)

(4) 魚津市民バス・地鉄バスに関するアンケート結果の概要報告

- ・市内バス交通の現状と課題を把握し、今後の利用促進を図ることを目的に、平成 30 年度 12 月から平成 31 年 2 月にかけて、魚津市民バス・地鉄バスに関するアンケートを行った。
アンケート回答数は、住民アンケート（市内全域）が 1,186 件、利用者アンケート（利用者が比較的多い 3 ルートの乗客）が 113 件であった。
(説明内容は別添プレスリリースのとおり)

2. 教育委員会及び各部長からの説明事項

〈教育委員会事務局次長〉

- ・魚津埋没林博物館のリニューアルから1年経過した状況について
(平成30年度の総入館者数は86,258人。工事による長期休館がなかった平成28年度に比べ245.9%増。有料入館者数は40,954人で、28年度比で116.7%増)

〈民生部長〉

- ・健康づくりウォーキングマップ“魚津を歩こう”を作成しました。
(地域振興会からおすすめウォーキングコースの提案をいただきマップを作成)

〈産業建設部長〉

- ・春のクマに注意しましょう
(市緊急情報配信サービス及び市ホームページ等で市民に注意喚起を行う)

3. 質疑応答の内容

「年号の表記」について

《記者からの質問》

魚津市では、本年度は、「令和元年度」と「平成31年度」のどちらの表記にするのか。

《回答》(企画総務部長)

予算については、国は令和元年度としている。魚津市については、当初予算は平成31年度としているが、5月臨時議会にかける補正予算からは令和元年度補正予算とし、表記を切り替える予定である。

《記者からの質問》

他自治体では平成31年度に統一するという話も聞いたが。

《回答》(企画総務部長)

各自治体それぞれである。

「婚姻届時の記念撮影等」について

《記者からの質問》

婚姻届時の記念撮影用の書はどなたが書かれたか

《回答》(民生部長)

書道をしている市職員が書いたものである。

《記者からの質問》

記念撮影時の背景は何か考えているか。

《回答》(民生部長)

当初は、背景を用意することは考えてなく、この令和の書パネルを持っていただいて記念撮影をする予定だったが、他の自治体では背景もあるとのことなので、魚

津市でも、背景について検討はしている。

《記者からの質問》

市としては、平成31年4月30日より令和元年5月1日のほうが婚姻届は多いという予想であるか。

《回答》（民生部長）

令和元年5月1日は大安でもあるので、大安と改元が重なり、届けが多いのではないかと予想である。

《記者からの質問》

平成31年4月23日から配布を始めた、記念の婚姻届については、順調に枚数が出ているのか。

《回答》（民生部長）

具体的な枚数までは把握はしていないが、順調に出ていると聞いている。

「魚津市ふるさと寄附」について

《記者からの質問》

寄附の使い道別の集計表に「市長におまかせ」とあるが何に使っているのか。

《回答》（企画総務部長）

地域づくり基金に組んでいる。新年度の重点事業や子育て環境の充実などに役立たせていただいている。

《記者からの質問》

他自治体では返礼割合を大幅に下げたりしているなか、魚津市では逆に上げているのは、それまでは低かったということか。返礼割合を上げる余地があったということか。

《回答》（市長）

これまでは少し低かったかもしれない。数字をみると3万円のところには壁があるように思える。それを超えると少なく、2万円までは多いのでお手頃感があるのかもしれない。

《記者からの質問》

ふるさと寄附の使い道別集計で、例えば「ワイワイと元気で活力がみなぎるまちづくり」とあるが、どんな事業に充てられているのか

《回答》（企画総務部長）

地域創生関係の事業に、地域づくり基金を充てている。詳細な充当先については、財政課でご確認いただければと思う。

《回答》（企画政策課長）

これについては、昨年度寄附していただいたものを、一旦、基金に組んで、翌年度の事業に充てていく形になる。一年遅れで活用させていただいている形となって

いる。

《記者からの質問》

寄附者地方別の割合で関東が52%とあるが、これは魚津市出身者なのか。

《回答》（企画総務部長）

平成29年度以前であれば、東京魚津会に働きかけていたので、魚津市出身の関東在住者が主であると想像がついたが、平成30年度は900件以上の寄附があり、この数になると、出身者だけでなく返礼品に魅力を感じて寄附された方も多いのではないかと思っている。そこまでの詳しい分析についてはまだ行っていない。

《記者からの質問》

寄附件数が3倍になったのは、返礼品の良さであるのか気になるところである。増えた理由の見極めが大事なのではないか。

《回答》（企画政策課長）

これは推測ではあるが、泉佐野市などの件で、「ふるさと寄附」のことが大きく報道され、全国的に知られるようになったことで、全国的に寄附額が増え、相対的に魚津市も増加したのではないかと思っている。現在のところ分析しきれてはいない。

《記者からの質問》

市長としては、ふるさと寄附の制度自体はどのように考えているか。進めていくべきと考えているか。

《回答》（市長）

色々な考え方があると思うが、魚津市の産品を通じた知名度アップという点では、一定の効果があるのではないかと思っている。金額を増やすためだけの取組はあまりよくないと思っている。例えば、現在の特長として寄附者は男性が8割ほどである。これは返礼品にお酒のつまみになるものが多いことが理由のひとつであると思う。これに女性の注目を浴びるような返礼品もあれば、女性にも魚津のアピールすることができるので、そのような活用法はあると思っている。

《記者からの質問》

寄附額が1800万円ほどになってくると馬鹿にできなくなると思う。そうなる自治体間の競争となってくるのではないかと思う。

《回答》（副市長）

昨年度の途中から返礼品に加えたベニズワイガニの人気がある。その人気に引きずられ他の返礼品も多く出るようになってきた。

《回答》（市長）

富山湾のカニの水揚げの40%以上は魚津市である。カニ籠漁発祥の地でもあるので、漁業振興や担い手対策のアピール材料になるとも思う。どのように使うかが大事になってくる。

《記者からの質問》

新湊のカニの水揚げがクローズアップされることが多いが。

《回答》（市長）

新湊は昼の時間で時間帯がよく、カニを床に並べるので見栄えがよい。

《記者からの質問》

魚津は水揚げが多いのもったいないのでは。

《回答》（市長）

魚津の市場は高度な衛生管理を導入したHACCP対応の市場であり、衛生的に床にカニを並べることができない。

《記者からの質問》

衛面重視するとあまり見栄えがしないということか。

《回答》（副市長）

他の市場ではフロアに直接ブリなどを投げたりすることもあるが、それは衛生的にあまりよくない。魚津はHACCP対応ということで、衛生的に処理している。

《記者からの質問》

剥き身を行うなど、カニの加工は魚津市という感じがしていたのだが。何かカニの打ち出し方法はないのか。

《回答》市長）

インバウンド関係等で台湾などに行くとカニは出るのかなどと聞かれることも多い。カニはもっとうまく使いたいとは思っている。

「天皇陛下御即位祝意記帳所」について

《記者からの質問》

記帳所について、5月1日、2日の2日間設置予定の自治体が多かったと思うが、魚津市は1日限りというのは何か理由があるのか。

《回答》（企画政策課長）

2日間設置する自治体は、富山県、富山市など3つくらいだったと思う。1日のみ設置の自治体が多かったと思う。